

市民病院だより

地域と共に考える医療

外科 横井 亮磨

岐阜大学を卒業後、岐阜市民病院で研鑽を積み、このたび多治見市民病院に赴任してきました。

当科は、がんを中心に消化器疾患、呼吸器疾患、急性腹症などの救急疾患、外傷などに対して幅広く外科診療を行っています。また、手術治療だけでなく、がん化学療法（抗がん剤治療）、緩和医療にも積極的に取り組んでいます。さらに、月曜日から土曜日までの毎日午前中は外来を行っており、外傷などの治療に毎日通っていただくことも可能ですので気軽に受診してください。一方、予定手術は月曜日、木曜日、金曜日に行っていますが、もちろん急性腹症などの緊急手術が必要な方にも対応させていただきます。

急性腹症の頻度が高い疾患として、急性虫垂炎、急性胆嚢炎があります。急性虫垂炎はいわゆる盲腸と呼ばれる疾患で、みぞおちの違和感で発症し、徐々に右下腹部に痛みが移動することが特徴で



す。急性胆嚢炎は胆嚢結石が原因となり、食後（特に脂っこいもの）に右上腹部の痛みで発症することが多いです。どちらも発症早期の診断・治療が重要であり、手術を回避できる可能性や、手術時の合併症のリスクを防ぐことにつながります。急性胆嚢炎の場合、発症から72時間を経過するとリスクが高く手術できないこともあります。若い方でも発症する疾患であり、我慢せず早めに受診していただくことが重要です。

また、当科では患者への負担が少ない腹腔鏡手術を積極的に行っています。大きくお腹を切る開腹手術と異なり、傷の痛みが少なく早期の回復が期待できます。胃がんや大腸がんなどの悪性疾患、急性虫垂炎や急性胆嚢炎などの急性腹症、鼠径ヘルニア（脱腸）などの良性疾患でも積極的に行っていきます。今後も患者を第一に考えたより良い医療を提供できるよう頑張ります。

問 市民病院 TEL 22-5211

子どもの権利を考えよう

子どもの権利相談室

「たじみ子どもサポート」から

問 子どもの権利相談室 小栗 TEL 23-8786

開室15年目の子どもの権利相談室「たじみ子どもサポート」には、これまでたくさんの相談が寄せられてきました。今回は子どもたちから受け取ったメッセージをお伝えします。

SOSに気付いてほしい

子どもは困ったらすぐに相談するとは限りません。特に、年齢が高くなるにつれ、周りの状況を感じ取って行動するようになります。「こんなことを言ったらおとなを困らせてしまうのでは」「忙しそうだから」「などを理由に言い出せない子どもからは、いつもと違うサインが出てくるかもしれません。

話をちゃんと聴いてほしい

子どもが話している時は、おとなは話の腰を折ることなく、最後まで聴いてください。おとなが子どもたちのためを思って行動しても、子どもから「言っても聴いてくれない」「だれも分かってくれない」といった言葉が聞かれます。これらの言葉は、子どもの今の思いや願いと、

おとなの考えとのズレを気づかせてくれます。子どもの声に耳を傾けると、子どもの思いが見えてきます。

分かっている

子どもは、近くで自分の思いを受け止め、尊重し寄り添ってくれる人を求めています。言う通りにしてほしいということではありません。今のその思いをただ分かっているのです。気持ちを共有できる人との出会いは、自分の力に気づき解決へ向かう大きな後押しになります。

1人ではどうしていいか分からない時、誰かと一緒に考えて、発見できることもあります。また、話をすると気持ちも軽くなります。誰かに相談すればよいか迷ったら「たじみ子どもサポート」を活用しましょう。

ひとりじゃないよ
いっしょに話そう

